



日光地域には、国際的にその価値が認められたものが2つあります。1つは前回ご紹介した「世界遺産」。もう1つが今回ご紹介する「ラムサール条約登録湿地」です。ラムサール条約とは何なのか？どこか？どうして？こんな疑問にお答えし、「そうだったのか〜」と納得していただければと思います。（前回の「世界遺産」同様に、お友達、お知り合いの方にも教えてあげて下さい）

—「奥日光の湿原」がラムサール条約登録湿地に—

日光地域にある湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原のうち、260.41haが、2005年正式にラムサール条約湿地として登録されました。全国で33か所、世界で1,580か所登録されています。（2006年2月現在）

—ラムサール条約とは？—

1971年、イランのラムサールで国際会議が開かれ、この条約が生まれました。正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。現在では水鳥の生息に限らず、湿地を広く保全する目的を持っています。



—登録湿地になったらどうなる？—

登録された湿地は、自国の制度によって保全や復元をしてゆかねばなりません。ただ、そこで何もできなくなるわけではなく、むしろその湿地の価値を生かして、賢明な利用（ワイズユース）を実行してゆく事が求められています。

【奥日光の登録湿地の紹介】

- 湯ノ湖 . . . . . 三ツ岳の噴火によってできたせきとめ湖。水深が浅いため富栄養化しやすい。湖畔には、一周歩道（1時間半位）があり、北東部は、温泉湧出のため結氷せず、冬には水鳥が飛来する。
- 湯川 . . . . . 湯ノ湖の水が湯滝となって落ち、中禅寺湖に至る川。今回の登録は、湯滝から戦場ヶ原までの区間。草の株が盛り上がり、増水にも耐える「谷地土方主（やちぼうず）」が、あちこちに見られる。
- 戦場ヶ原 . . . . . 男体山の噴火によって川がせきとめられてできた湿原。今回の登録は、国道の西側のみ。湿原には、高層、低層、中間の3種類があるが、ここはその全種類を合わせ持っている。奥日光で最も人気のあるハイキングコース。
- 小田代原 . . . . . 湿原から草原に移行する段階の原。平らに見えるが高低差があり、草紅葉の時期は植生の違いがよくわかり、美しい。周囲に防波柵を設置したおかげで、野草の花々が復活した。

<参考：奥日光>



さわやかな夏の奥日光に、双眼鏡をぶらさげてのんびり歩きに来て下さい。たくさんの動物や植物たちがみなさんをお待ちしています。  
♥ そっとやさしくおつきあい♥

